

# 教育シンポジウム

## 1. 腫瘍内科におけるクリクラの現状

藤 阪 保 仁

近畿大学医学部内科学教室 (腫瘍内科部門)

本邦において2000年に新たに診断されたがん (罹患全国推計値) は538345例 (男性310130例, 女性228215例) で2004年にがんで死亡した人は320334例 (男性193075例, 女性127259例) と報告されている。死亡原因の第1位であり, 国民の生命及び健康にとって重大な問題になっており, 国民のがん医療に対する期待や需要は確実に高まっている。

がん対策基本法の施行により, がん医療水準の均てん化や効果的な治療法の確立, 緩和ケア等の療養生活の質の維持向上になどが図られている。しかしながら, 欧米と比べると日本の臨床腫瘍学の普及の遅れは否めない。わが国では, これまで大学医学部, 医科大学において臨床腫瘍学の系統的な教育が行われておらず, 卒後の研修システムも確立していなかった。

癌薬物療法を専門に行う診療科及び専門医師への社会的需要の増大を背景に, 2002年, わが国で最初に本格的な腫瘍内科が誕生した。様々な進行固形癌を対象にする腫瘍内科は, 癌に対する薬物療法 (抗

癌剤治療) の進歩をリードしつつ, EBMに基づき個々の症例に最良とされる標準的治療法を実施している。

学生には, チーム医療の一員として, 根治の望めない難しい状況にある患者への対応を学んでもらう。すなわち, 化学療法の意義, 緩和医療の役割, そして患者, 家族へのコミュニケーションの取り方を学んでもらう。最初は, 治らない患者と何をしゃべればいいのかと困惑気味の学生も, ベッドサイドで患者と話をし, 何かを得たのであろう, いつのまにか打ちとけ対応している姿はほほえましく思う。ただ, 優しさの中にも, 正確な知識・確かな技量が求められるのが腫瘍内科である。厳しいカンファレンスを通して身につけてもらえればと思う。

腫瘍内科は, 難しい状態の患者の対応を主とするので, 敷居が高く感じられるかもしれないが, クリニカル・クラークシップを通し, やりがいのある臨床腫瘍学を知っていただきたい。

## 2. 形成外科におけるクリニカルクラークシップの現状

楠 原 廣 久

近畿大学医学部形成外科学教室

**はじめに** 当科における平成21年度臨床実習 (クリニカルクラークシップ) は, 前年までとカリキュラム変更により大きく変化した。前年までは5年生全員が1週間の実習, 当科を選択した6年生が2週間実習を行っていた。しかし, 本年度より5年生の実習はなくなり, 当科を選択した6年生のみが2週間の実習を行うこととなった。これは主要科目を強化するための変更と考えられるが, 5年生での実習が全くなくなったのは, 当科と心臓血管外科のみである。**目的** 前年度までと本年度のカリキュラムにおける利点および欠点を述べ, 今後の改善点を提案したい。**当科の実習** 当科では縫合方法を教え, 主治医の監督下, 手術で実際に縫合をさせている。縫合は外科手術の基本であり, 外科系に進む学生にとって当科の縫合方法の習得は重要と考える。**前年度までのカリキュラムでの問題点** 当科の人員では負担が大きかった。特に4月から7月は, 5年生と6年生が同時に回ってくるため, 手術実習で十分に症例

を割り振れなかった。**本年度のカリキュラムの利点・欠点** 希望者のみが実習に来るので学生にやる気がある。また4月から7月までしかないので医局員の負担が少なく, 十分な実習が可能となった。しかし, これまで6年生が当科実習の選ぶ理由の大半は「5年生での縫合実習が良かったから」であったので, 今後選択希望者が減る可能性がある。これは今後入局者の減少にもつながる可能性がある。**提案** 実際5年生までに機械縫合の方法は外科で教えられているはずであるが, できていない学生が多い。できれば最初の5年生全体のオリエンテーション時, 当科での縫合実習の時間を設けてもらい, 実戦での縫合実習を希望する学生には6年生での当科の実習を選択してもらうことを提案したい。**まとめ** 現行のカリキュラムにより, かなり少数であるが充実した実習が可能となった。しかし, 今後, 希望者が減少する可能性が高く, 当科の重要性を認知してもらう工夫が必要と考えられた。

### 3. クリクラ実習についての学生からの提案

富 樫 佑 一 進 藤 恵 美

近畿大学医学部 5年生代表

近畿大学医学部において今年度より変更されたカリキュラムについて、実際に実習した5年生からの意見を教育に携わってくださる先生方に知っていたくとともに、さらなるカリキュラムの改善へと役立てていただくため、今回発表の機会を頂いた。

現5年生の学生にクリクラ実習に対して任意で意見を募り、集まった意見をまとめ、各科別に意見を分析した。学生からの意見を大まかに言うと、次の4点に意見がまとめられる。まず、実習・講義・課題(レポート作成など)の時間のバランスを見直していただきたいこと、次に回診のときに説明がないと見るべきポイントを見逃してしまうということ、3番目に実習とリンクした講義を組んでほしいということ、最後にPHSがなくて困るケースが多いという点である。これらの指摘させていただいた点の改善の提案として、各科でアンケートを実施するなどして改善点を探っていただき、実習内容の見直しを随時行っていただくということ、回診時に学生に説明して下さる先生を1人当てていただき、見る

べき点を指摘していただいたりアドバイスしていただくということ、ただ漠然と手技や検査などをみるのではなく、まず軽い講義を受けた上でそれから実習に臨むということ、せめて班に1つはPHSを貸与していただくといったことが挙げられる。

また、6年生のクリクラ実習の改善点の提案も同時にさせていただきたい。5年生102名に対してアンケートを実施し、60の回答を得た。その結果によると、各科関連の市中病院でのクリクラ実習の希望者が57%、5年生とは全く別のカリキュラムで実習したいという人が60%いた。具体的にはシュミレーターなどを用いた実技実習やルートキープ、結紮などの手技練習、初診外来で問診をとってみたいなどと答えた人がいた。また、実習にあたっては自分の希望した科を確実にまわりたいという意見が多かった。

以上が5年生から提案させていただくことである。これらのことを参考に今後のカリキュラム作成に役立てていただければ幸いである。